

備えよう!
いざという時のために

保存版

防災のしおり



家族の連絡先

※日頃から記入しておきましょう。

名 前	勤務先・学校等	電 話 番 号	携 帯 電 話

一時避難場所

避 難 所

洪水時の避難所

● いざという時のため見える場所に保管しておきましょう ●

北竜町

(令和5年度作成)



避難準備

いざという時のために日頃から
備えを万全にしておきましょう。

あっ! 災害だ!! いざという時は!

まさかのためのしっかり対策。日頃から非常持出品の準備と連絡先・避難先の確認を
することが、「あわてず落ち着いて」対処するカギです。いつおそってくるかわからな
い、あらゆる災害に備えて日頃から家族で話し合っておくとよいでしょう。

非常持出品

*あらゆる災害・非常事態に備えて今一度確認してみましょう。

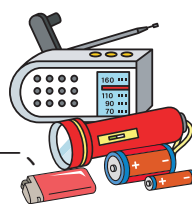
貴重品

現金、通帳、印
鑑、保険証、免許
証、母子健康手
帳など



ラジオ 照明器具

FM付ラジオ、懐中
電灯、予備電池、
ローソク、ライター、
マッチなど



衣類

下着、トレー
ナー、ジャン
パー、軍手、
雨具など



非常用食品

缶詰、カンパン、
ビスケット、チョコ
レート、水など



道具類

缶切り、栓抜き、
ナイフ、割り箸、
ロープ、ビニール
シートなど



救急・衛生用品

消毒液、傷薬、目薬、胃腸
薬、鎮痛解熱剤、ば
んそうこう、ほう帯、
生理用品、ウェット
ティッシュなど



備蓄品

*数日間を自活するためのもので最低でも3日分を用意しましょう。

燃料

卓上コンロ、スベア
ガス、固形燃料など



洗面具

歯ブラシ、タオル、
石鹸など(避難所
にはありません)



水

飲料水は1人当り
日約3リットルが目
安です。



暖房

暖房器具、使い捨
てカイロなど



食料品

米、アルファ米、レト
ルト食品、カップ麺、
菓子類など保存期
限の長いもの



家庭構成に合わせた準備を



乳幼児が いる場合

粉ミルク、ほ乳ビ
ン、紙おむつなど

要介護者や 高齢者のいる家庭

レトルト食品(おかゆなど)、着
替え、紙おむつ、ウェットティッ
シュ、障がい者手帳、老眼鏡、補
聴器、入れ歯と入れ歯ケース、
補助具などの予備、常備薬など



○循環備蓄のすすめ○

～食料品や生活消耗品の循環備蓄とは～

食料品の備蓄というと、乾パンや缶詰など「長期
保存できるもの」をイメージしがちですが、例えば、
お米を一袋余分に買って置き、なくなったら保管し
ていたお米を食べて、また一袋買い足しておけば、
賞味期限を気にすることなく備蓄している事になり
ます。食料品のほか、トイレトペーパーや生理用
品など、生活消耗品にも取り入れることで災害時に
対応でき安心です。「循環備蓄」を心がけましょう。

防災情報はいろいろあるけど
いつ避難すればいいの?

警戒レベル4で全員避難!!

【警戒レベル】で避難のタイミングをお伝えします。

【警戒レベル】を用いた避難情報を発令します。

町から【警戒レベル3、4】が
発令された地域にお住まいの方は、
速やかに避難してください。
【警戒レベル5】は必ず発令
される情報ではありません。



【警戒レベル6】は既に災害が発生している状況です。

次のような内容で自治体から避難行動を呼びかけます!

呼びかけの
一例

警 戒
レ ベ ル
4

避難指示の
伝達文例

■緊急放送、緊急放送、警戒レベル4、避難開始。
緊急放送、緊急放送、警戒レベル4、避難開始。

■こちらは、防災北電です。

■〇〇地区に洪水に関する警戒レベル4、避難指示を
発令しました。

■〇〇川が氾濫するおそれのある水位に到達しました。

■〇〇地区の方は、速やかに全員避難を開始してください。

■避難場所への避難が危険な場合は、近くの安全な場所
に避難するか、屋内の高いところに避難してください。

警戒レベルととるべき行動を
端的に伝えます

避難指示の発令を伝えます

災害が切迫していることを伝えます

とるべき行動を伝えます

避難情報

災害のおそれがある時は、その状況に応じて町から避難情報、避難指示が発令されます。これらの情報に十分注意して行動してください。

① 高齢者等避難

- 避難するのに時間がかかる高齢者などの要援護者やその支援者は避難を始めてください。
- 通常の避難行動ができる人は、家族との連絡、非常持出品の用意など避難の準備を始めてください。



② 避難指示

- 対象地域の住民は指定された避難所に避難してください。
- お互いに助け合いながらすみやかに行動してください。



「特別警報」が発表されたら...

■ただちに命を守る行動をとってください■

- 経験したことがない重大な災害が予想される状況です。
- 危険が迫っているため、決して油断することなく、身を守るための最善を尽くしてください。

安全に避難するために

① 安全な避難路の確認

避難所までの経路は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。

② 非常持ち出し品の事前準備

避難するときの荷物は必要最小限とし、事前に準備しておきましょう。

③ 正確な情報収集と自主的避難

ラジオやテレビ、インターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

④ 動きやすい服装で避難

避難するときは動きやすい服装を心がけましょう。

⑤ 避難の呼びかけに注意

危険が迫ったときには、役場や消防などから避難の呼びかけがあります。すみやかに避難しましょう。

⑥ お年寄りなどの避難に協力

お年寄りや子ども、病気の人などは、早めの避難が必要です。近所のお年寄りなどの避難に協力しましょう。

⑦ 2人以上で行動

なるべく2人以上での行動を心がけましょう。

【北海道防災情報システムで災害情報を入手できます】

携帯電話やパソコンから災害に関する情報を入手できる北海道のサービスです。外出先で地域の大雨や地震・津波などの情報をいち早く知ることができます。アドレスは <http://i.bousai-hokkaido.jp/> (右のQRコードから読み取ることもできます)



風水害

台風や豪雨などによる風水害は、対策によって最小限に止めることができるものです。気象情報には十分に注意して、早めの備えを心掛けましょう。

台風が接近! 大雨が予想される場合

① ラジオ、電池の備えを!

停電に備え、携帯ラジオ、電池の準備を。



② 気象情報を聞く

気象情報を注意深く聞きましょう。また、町の防災無線などの呼びかけを聞きのがさないよう注意しましょう。



③ 早めの準備を!

避難に備えて非常持出品の準備を。



④ すみやかな行動を!

避難準備情報や避難勧告が出たらすみやかに行動を。特に河川の付近では注意。



風の強さと吹き方

平均風速 **15~20** m/s

風に向かって歩けない。転倒する人もでる。小枝が折れる。

平均風速 **20~25** m/s

しっかりと身体を確保しないと転倒する。窓ガラスが割れる恐れもある。

平均風速 **25~30** m/s

立っていられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

覚えておくと役に立つ雨の降り方

やや強い雨 [10~20mm]

ザーザーと降る雨。地面一面に水たまりができ、雨の音で話し声が聞き取りづらくなります。

強い雨 [20~30mm]

傘をさしていても濡れるほど土砂降りの雨。道路側溝や下水、小さな川が溢れたり、小規模の土砂崩れが起こります。

激しい雨 [30~50mm]

バケツをひっくり返したような雨。道路が川のようになり、山崩れや崖崩れがおきやすくなります。危険地帯では避難の準備が必要になります。



非常に激しい雨 [50~80mm]

滝のようにゴーゴーと降る雨。傘が全く役に立たなくなります。土石流や河川の氾らんをはじめ多くの災害が発生する恐れがあります。

猛烈な雨 [80mm以上]

息苦しくなるような圧迫感、恐怖を感じる雨。雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要になります。

テレビで気象情報・河川情報の確認を!

地上デジタルデータ放送で気象情報や河川情報が無料でいつでも確認できます。リモコンの[d]ボタンを押すことで、気象情報や河川情報など防災に役立つ身近な情報をご覧いただけます。

※河川情報はNHKのデータ放送でご確認ください。 ※お使いのリモコンにより[d]ボタンの位置は異なります。



竜巻から身を守るために

半日～1日前

「気象情報」発表

数時間前

「雷注意報」発表

0～1時間

「竜巻注意情報」発表

「発達した積乱雲の近づく兆し」に注意

次のような状況になると、竜巻が発生する可能性があります。

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。

屋内にいる場合

窓やガラスのない部屋、廊下、地下室、最下層に移動する。
雨戸、シャッター、窓、カーテンを閉める。
丈夫な机やテーブルの下に入り、身を小さくして頭と首を守る。

屋外にいる場合

近くの丈夫な建物に避難する。
飛来物から身を守る物陰や溝、水路、窪地に身を潜める。
飛ばされる危険があるため車庫や物置の中は避難場所にしない!

落雷

雷も発達した積乱雲に伴って発生します。被害は夏に集中する傾向があります。

落雷や雷にともなうひょう、突風などの被害が予想される場合、雷注意報が発表されます。

野外で活動していて雷が近づいてきた場合などは、大きな建物の中か、列車やバス、車の中に避難しましょう。

近くに避難する場所がないときは

- できるだけ姿勢を低くする
- 高い木からは4m以上離れる



土砂災害にも注意が必要です!

こんな前ぶれ現象に注意!!

次のような現象を察知した場合は、土砂災害が直後に起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場・消防署・警察署へ通報してください。



- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる



- 川の流れが濁り流木が混ざりはじめる



- 斜面から水がふき出す

※その他山鳴り、地面にひび割れなどの現象が考えられます。

逃げ方を覚えましょう



土石流は速度が速いため、流れを背にしていたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。

雪害

暴風雪による被害や除雪時の事故が年々増え続けています。未然に被害を防止するには、天気予報のチェック、外出を控えるなど、対応が必要です。



被害防止のための心得

- 気象情報に注意して、暴風雪が予想される時は、外出を避けましょう。
- 停電に備えて懐中電灯、携帯ラジオの準備をしておきましょう。
- 外出できない場合に備えて、食料や飲料水などを確保（備蓄）しておきましょう。
- FF式暖房機の給排気口付近の除雪状況を確認しておきましょう。



車で外出する際の心得

- 吹雪や吹きだまりにより、車が立ち往生する可能性もあるので、防寒着、長靴、手袋、スコップ、牽引ロープなどを車に用意するとともに、十分に燃料があることを確認して出掛けましょう。また、万一に備えて、飲料水や非常食も用意しておくとう安心です。
- もし運転をしていて危険を感じたら、無理をせずに道の駅やコンビニエンスストアなどで天気の回復を待ちましょう。



万が一、動けなくなった場合は……

- 大雪や吹きだまり等で車が立ち往生した時は、道路緊急ダイヤルやJAF等のロードサービス、近くの人家などに必ず救助を依頼してください。また、ハザードランプを点灯したり停止表示板を置くなど、車が目立つようにしてください。
- 大雪や吹きだまり等で車が立ち往生した時は、道路緊急ダイヤル（#9910）
● JAFロードサービス（短縮ダイヤル#8139）
- 避難できる場所や救助を求められる人家がない場合は、消防や警察に連絡するとともに、車のマフラーが雪に埋まって排気ガスが車内に充満するおそれがありますので、マフラーが雪に埋まらないように定期的に除雪し、窓を少し開けて換気を行うなどして、車の中で救助に備えてください。
- 車を置いて避難する場合には、除雪や救助活動の妨げとならないよう、連絡先を書いたメモなどを車内に置き、車の鍵は付けたままにしておきましょう。



除雪時の心得 屋根の雪下しは特に危険!

- 作業は家族、となり近所にも声をかけ、2人以上で行いましょう!
- 晴れの日ほど屋根の雪がゆるんでスベリやすくなります。命綱やヘルメットを着用しましょう!
- はしごの固定はしっかりしましょう!
- 除雪機の雪詰まりは、エンジンを切ってから取り除きましょう!
- 作業のときは、携帯電話を持参しましょう!





火災

「うっかり無用心」がいつ火災につながるかわかりません。生活習慣のチェックと、一人ひとりの防火意識が最も大切です。

火災が発生したら!

① すぐに大声で知らせる!

- 火災を発見したら、まず近所の人に大声で知らせる。
- 大声が出なければ、鍋などをたたいて大きな音をたてて知らせる。
- 小さな火でも119番。当事者は消火にあたり、近くの人に通報をたのむ。



② 早く消火する!

- 出火から3分以内が消火できる限界。
- 水や消火器だけに頼らず、座布団でたたき、布団をかぶせて密閉するなど機転をきかせて消火にあたる。
- カーテンは力いっぱいひきずりおろし、火が天井へ燃え移らないようにする。



③ 早く逃げる!

- 火が天井に燃え移ったら、消火をあきらめすみやかに避難する。
- 避難する時は、燃えている部屋の窓やドアを閉める。
- 煙の中を逃げる時はできるだけ姿勢を低くし、濡れタオルで口をおおうなどして煙をさける。
- 濡らした布などで顔や体をおおい、炎の中は一気に走り抜ける。



常備はしているけどどう使うの? 消火用具の正しい使い方&備え

せっかくの消火用具も使い方が分らなければ何の役にも立ちません。消火訓練には積極的に参加して、正しい操作を身につけましょう。

※消火活動は危険を伴います。無理だと思ったら、すぐ119番を!

●消火器

- ①安全ピンを引き抜く。
- ②ホースの先を持って火元に向ける。
- ③レバーを強くにぎる。



●その他の備え

- ふろの残り湯は捨てない。
- 洗濯機にはいつも水をはっておく。
- バケツは2個以上用意しておく。



こんな火はこうして消す

油 鍋

水をかけない。元栓を閉め、大きなふたをして空気を断つか、シーツなどを濡らして手前からかける。



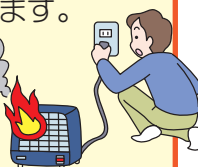
石油ストーブ

濡らした毛布などをかぶせ、その上から一気に水をかける。



電気製品

いきなり水をかけると感電のおそれがあります。プラグを抜いて(できればブレーカーも切る)消火。



カーテン・ふすま

出火して2分前後で壁面等に燃え移る。天井に火が回る前にカーテンは引きずりおろし、ふすまはけり倒して消火。



地震 グラグラッときたら!

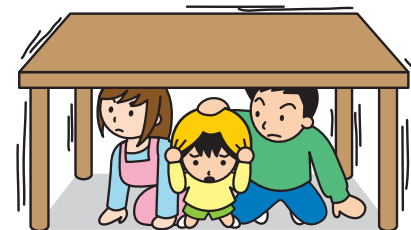
地震が発生したら、ケガや火災などの二次災害を起こさないことが、身を守るポイント。いざという時の行動を家族と話し合うことも大切です。

緊急地震速報の発令

緊急地震速報は震度5(弱)以上と推定される場合、テレビやラジオで流れます。速報が流れてから強い揺れが来るまでは、わずかな時間しかありません。震源に近い場所では、速報が揺れに間に合わないことも想定されますが、まずは倒れやすい家具類から離れ、直ちにテーブルや机の下に潜るなど、危険を回避してください。周りの人に声を掛けながら、状況に応じ慌てずに、まず身の安全を確保することが重要です。

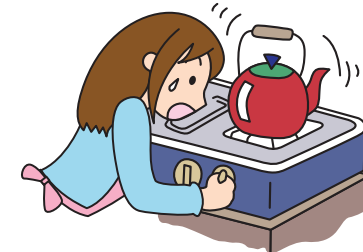
① まずは、身の安全を!

ケガをしたら火の始末や避難が遅れてしまいます。家具の転倒や落下物には十分な対策を。



② すばやく火の始末!

地震を感じたら、まず身の安全を確保して、「火を消す」かけ声の習慣をつける。



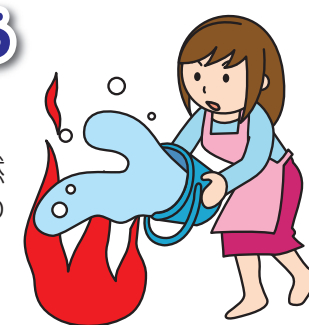
③ 戸を開けて出口の確保

振動でドアが開かなくなること。戸を開けて出口の確保を。



④ 火が出たらすぐ消火

万一出火しても天井に燃え移る前なら大丈夫。あわてず消火を。



⑤ あわてて外に飛び出さない

飛び出しはケガのもと。ガラスなどの落下物に注意し、冷静な判断を。



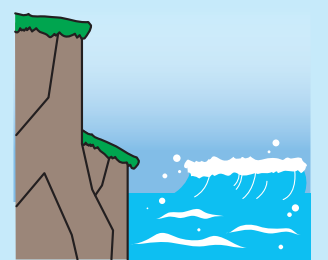
⑥ 避難はなるべく徒歩で

車での避難は危険なうえ緊急出動の障害に。ルールを守る心のゆとりを。



海岸にいるとき

海岸で地震を感じたときは、ただちにその場から遠ざかり高台などに避難しましょう。揺れが小さくても津波が襲ってることがあります。



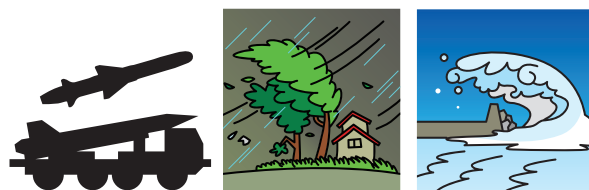
J-アラートによる緊急情報

北竜町には、地震や武力攻撃などの緊急情報をいち早く皆様へ伝達するため、「全国瞬時警報システム」(J-アラート)が設置されています。

情報の伝達は、まちの防災無線を通じて行われますので、緊急放送があった場合はその内容を確認し、適切な行動をするよう心がけましょう。

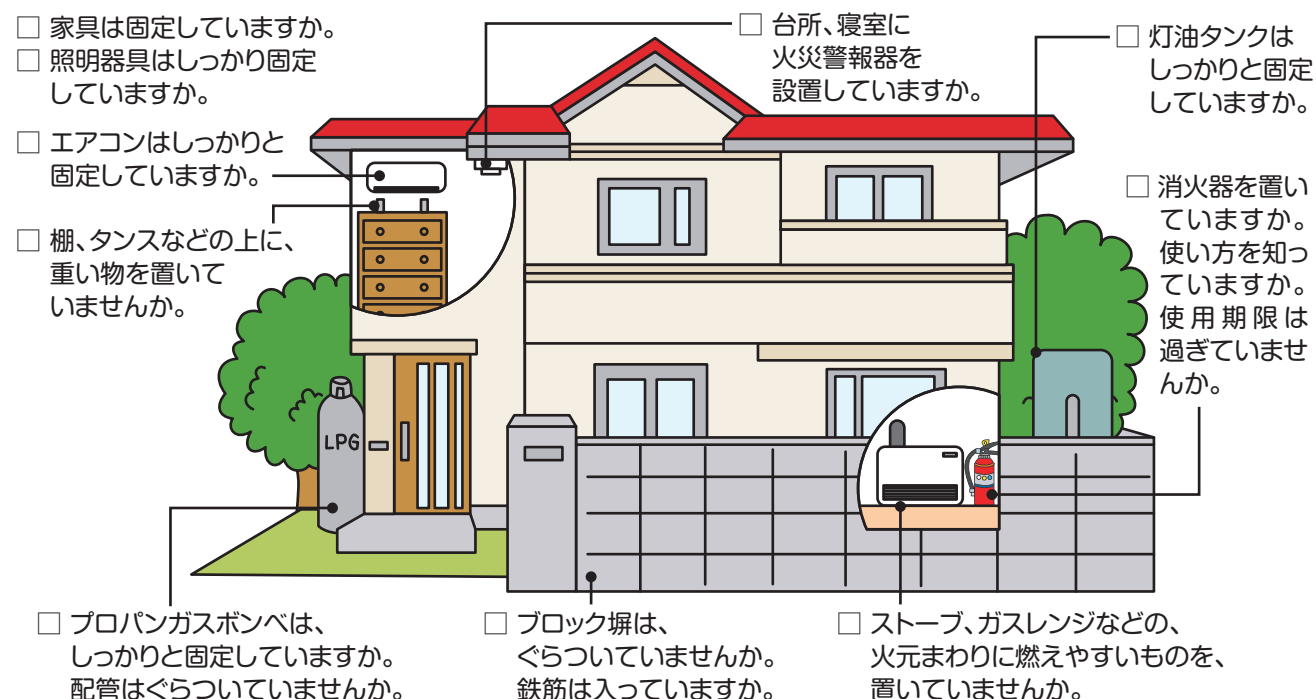
※J-アラートとは、国から発信された緊急情報を人工衛星を通じて瞬時に情報伝達するシステムです。

【緊急情報の例:地震情報、津波情報、ミサイル情報、ゲリラ情報など】



わが家の地震対策チェック

自宅の安全対策について点検し、対策が出来ていれば☒にチェックを入れましょう。不備な点がある場合は急いで対策を行いましょう。



室内の安全対策

自宅の家具も地震時には凶器となり得ます。家具を固定し、安全対策に努めましょう。

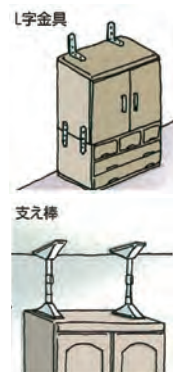
寝室が特に重要です。

就寝中に地震が起きた場合、とっさの行動は困難です。家具の下敷きにならないよう、家具の固定や配置を工夫して自分に家具が倒れてこないようにしましょう。また、地震の後に、割れたガラスを踏むなどして負傷する事例がみられます。負傷すると、その後の行動にも支障をきたしますので、スリッパなどの履物や懐中電灯などを、就寝場所の手の届く場所に備えておきましょう。



タンス・本棚

し字金具で固定する。住宅事情により金具が取り付けられない場合は、支え棒が便利です。



暖房機器

耐震自動消火装置付きのものを。周囲に燃えやすい物を置かない。



要配慮者のために

災害が起きたときに、何らかのハンディキャップがあるために、避難行動や避難所での生活において手助けを必要とする人を要配慮者といいます。このような方々にとって頼りになるのが、地域で暮す一人ひとりの助け合いです。

高齢者・傷病者の方

- 緊急時にはおぶって避難する。
- 1人での援助が困難な場合は、複数で担架や毛布などを使って避難する。

車いすを使う方

- 階段では2人以上で援助し、上がるときは前向きで、下りるときは後ろ向きで移動する。
- 車いすが使えない場合は、おぶって避難する。

耳が不自由な方

- 筆談や身振り、手のひらに指で字を書くなどで伝える。
- 話すときには、口を大きくはっきりと動かし、言葉が伝わるようにする。

目が不自由な方

- 杖を持たない方の手でひじのあたりを軽くつかんでもらい、半歩前を歩く(杖や腕を引っ張らない)。
- 行き先や方向、段差など目の前の状況を知らせながら誘導する。

乳幼児を抱える方・妊産婦

- 声かけをしたり荷物を持ってあげたりして、身体的・心理的な負担を和らげる。

外国人の方

- できるだけ簡単な日本語で伝える。
- 言葉が通じない場合は、身振り手振りで避難所へ誘導する。



福祉避難所 (高齢者等)

北竜町では、高齢者等の要配慮者に対して、「農村環境改善センター」を福祉避難所として指定しています。

※突発的な災害が発生した場合は、最寄りの指定避難所へ避難してください。

※避難勧告や指示が出されなくても、身の危険を感じた場合は自主避難を心がけましょう。

● 農村環境改善センター Tel (0164) 34-2553

覚えておこう! 困った時の応急手当

災害時は、救護活動も思うように進まないことが多いのが現状です。
そんな時、適切な応急手当ができるかどうか、傷病者を救うカギとなります。

人が倒れているとき

1 肩をたたきながら声をかける。



2 反応がなかったら、大声で助けを求め、119番通報とAED搬送を依頼する。



3 呼吸を確認する。(胸か腹部の上り下がりを見る)



4 普段どおりに呼吸がなかったら、すぐに胸骨圧迫を30回行う。



5 胸骨圧迫の後、人工呼吸を2回行う。



6 ④と⑤を救急隊員と交代するまで続ける。

人工呼吸

- ①頭を後ろにそらせ鼻をつまむ。
- ②大きく口を開けて、傷病者の口を覆い約1秒間かけて息を吹き込む。吹き込みは2回まで。
- ③口と指を離し、傷病者のはき出す息と胸腹部の動きをみる。



胸骨圧迫

- ①胸の中心に手を置き、もう一方の手を重ねる。
- ②肘を伸ばして垂直に圧迫する。
※両手で胸が約5cm沈むように、強く速く圧迫。
※テンポは少なくとも1分間に100回～120回行う。



AED (自動体外式除細動器)

近くにAED (自動体外式除細動器) がある場合、AEDを装着し、音声ガイダンスに従って除細動することは救命に大きな効果があります。

※小児用電極パットが入ってる場合は、小児人 (おおよそ6歳くらいまで。乳児も使用可能) にも使用できます。又、ない場合は成人用パットを代用します。

※日頃からAED設置場所を確認しておきましょう。



AED (自動体外式除細動器) の使い方

心臓の筋肉がけいれんを起こす「心室細動」を電気ショック (除細動) で治療する機器です。AEDは電源を入れると、機械から音声で操作手順の指示が出ますので、初めての人でも簡単に使用できます。また、電気ショックが必要かどうかの判断も自動で行い、必要がなければ指示を出さず、間違ってボタンを押しても電気ショックは与えられません。

骨折

- 変形している場合は、無理に元の形に戻してはいけません。
- 局所の安定を保つために副木を当て、骨折部の上下を固定する。
- 固定したら、安静にして救護を待つ。

ワンポイント

副木は、板、靴べら、杖、傘など身近なもので十分に対応できるので、活用しましょう。



やけど

- やけどの部分をつみやかに水道の流水で痛みが和らぐまで10分以上冷やす。
- 衣類を着ている場合は、着衣ごと冷やし続ける。
- 水ぶくれは破らないように気をつけ、触らないように保護する。



直接圧迫止血法

出血部位を確認し、きれいなガーゼやハンカチ、タオルなどで傷口を直接圧迫します。片手で圧迫して止血しないときは、両手で体重を乗せながら圧迫止血します。救急隊が到着するまで押さえ続けてください。

ワンポイント

感染防止のため、できるだけビニール製やゴム製の手袋またはビニール袋を使用します。止血のために細い紐などで縛ることは、神経や筋肉を損傷するおそれがあるので行いません。
※大量に出血している場合や出血が止まらない場合、ショック症状がみられる場合は、ただちに119番通報してください。



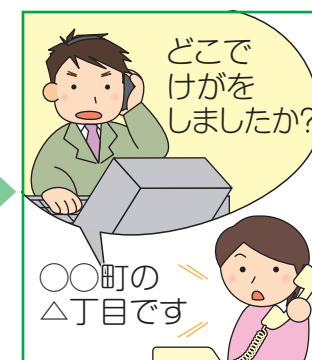
救急車を呼ぶ場合 あわてずに119番に電話をかけ、質問にははっきり答えてください。



①まず救急車をお願いします



②けがをしたことを伝える



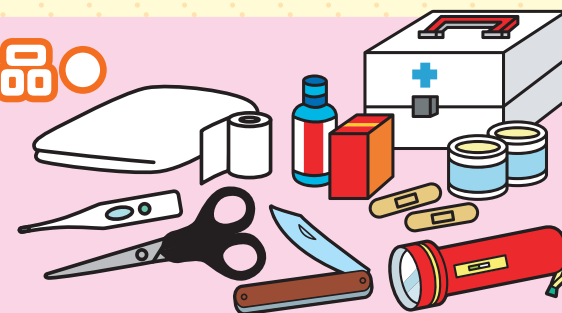
③場所 (住所) を知らせる



④電話番号を知らせる

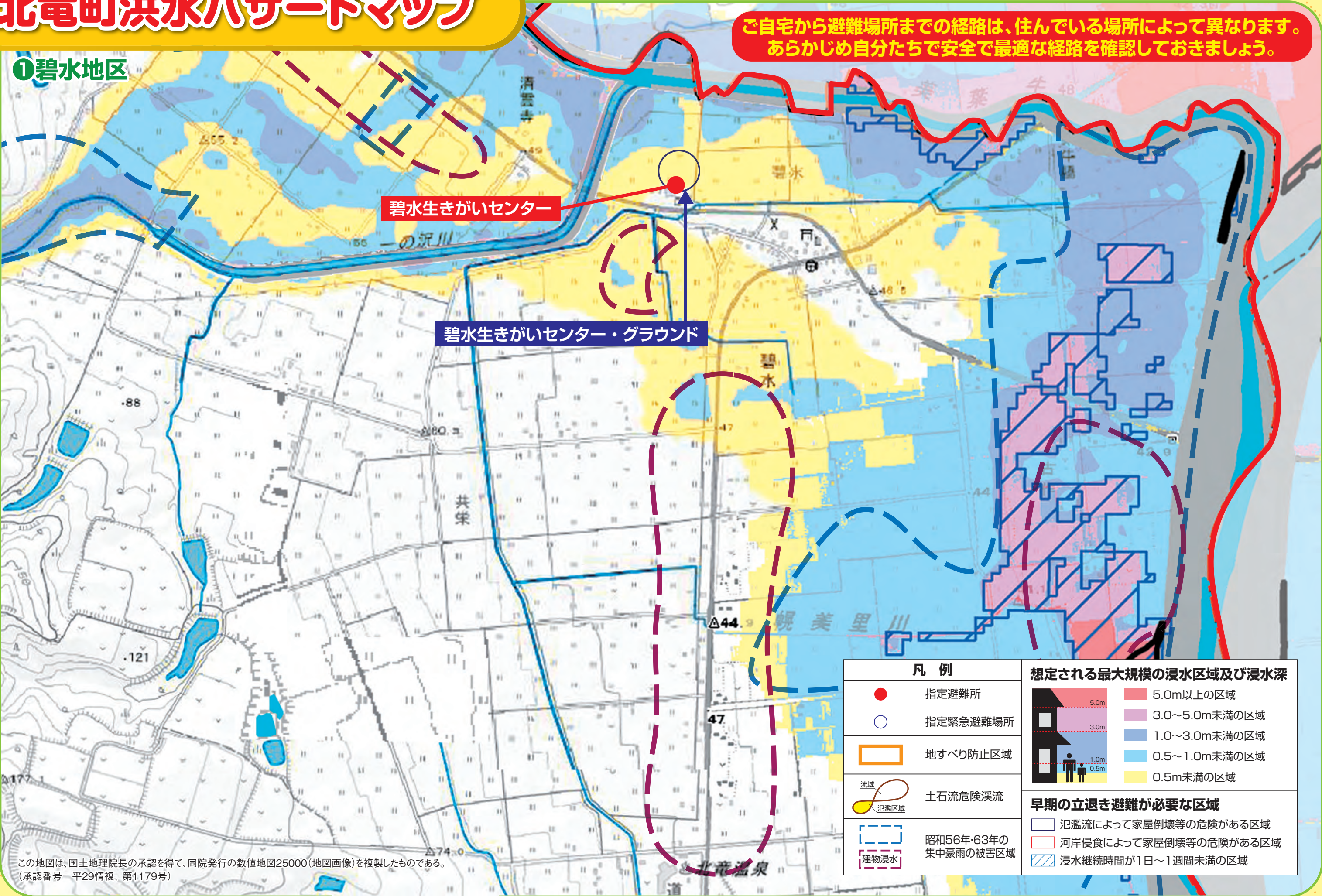
●備えておきたい応急手当用品●

- 三角巾
- 滅菌ガーゼ
- ばんそうこう
- 収納かばん
- はさみ
- ピンセット
- 消毒石けん
- 体温計
- ナイフ
- 安全ピン
- 創面消毒薬
- 懐中電灯
- 包帯



北竜町洪水ハザードマップ

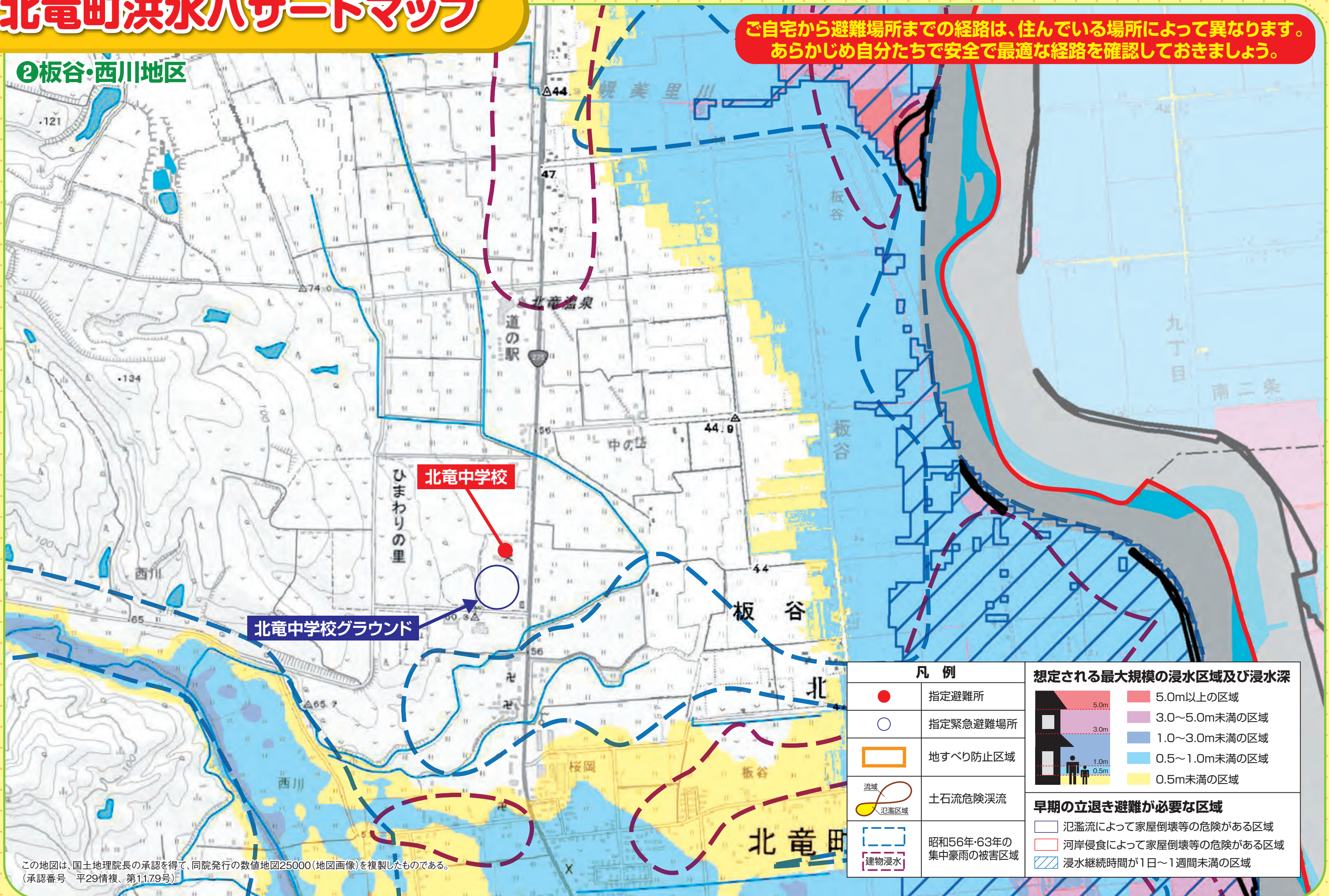
① 碧水地区



北竜町洪水ハザードマップ

②板谷・西川地区

ご自宅から避難場所までの経路は、住んでいる場所によって異なります。
あらかじめ自分たちで安全で最適な経路を確認しておきましょう。

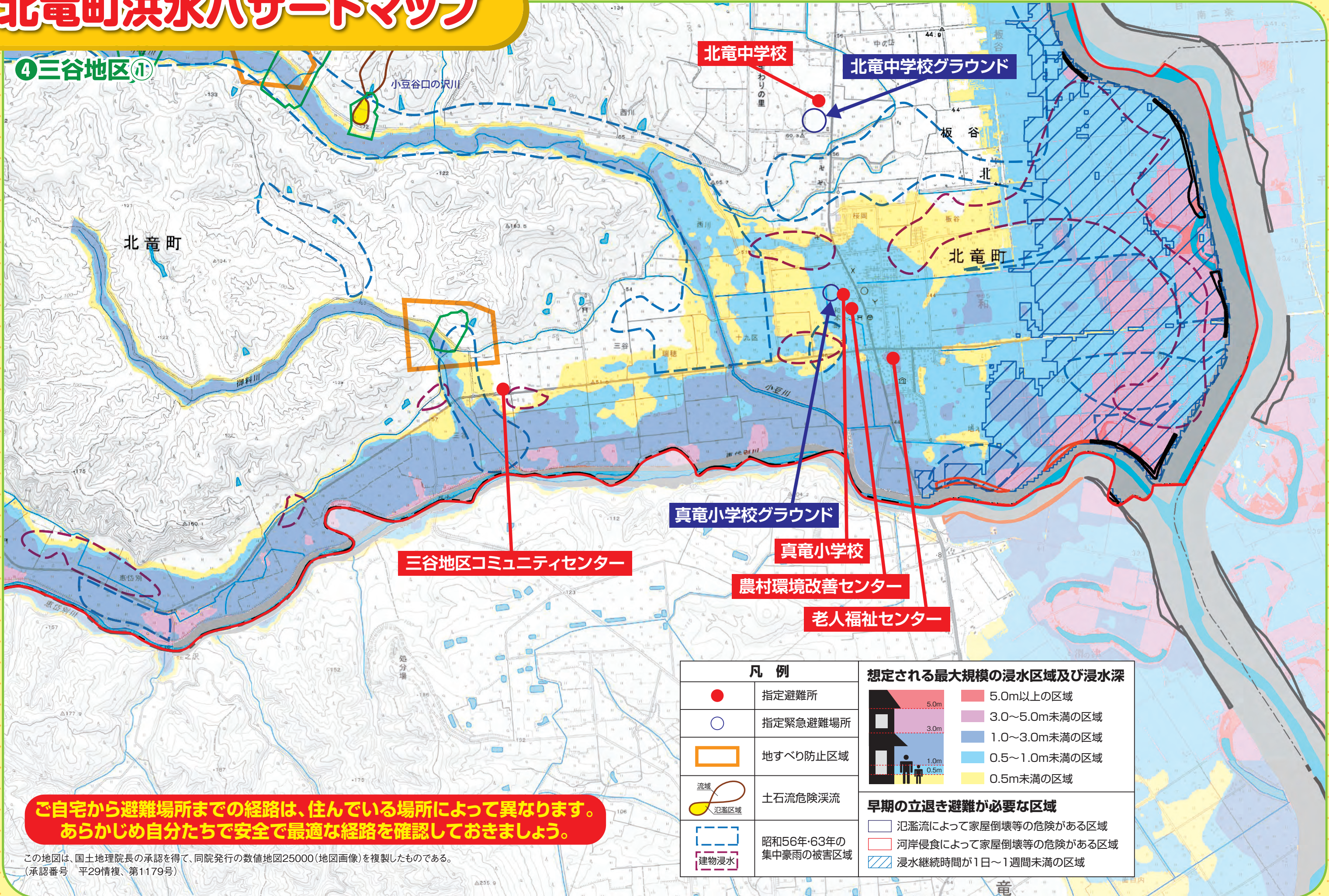


この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
(承認番号 平29情複、第11.79号)

凡 例		想定される最大規模の浸水区域及び浸水深	
●	指定避難所		5.0m以上の区域
○	指定緊急避難場所		3.0～5.0m未満の区域
□	地すべり防止区域		1.0～3.0m未満の区域
流域	土石流危険渓流		0.5～1.0m未満の区域
氾濫区域			0.5m未満の区域
昭和56年・63年の集中豪雨の被害区域		早期の立退き避難が必要な区域	
建物浸水		氾濫流によって家屋倒壊等の危険がある区域	
		河岸侵食によって家屋倒壊等の危険がある区域	
		浸水継続時間が1日～1週間未満の区域	

北竜町洪水ハザードマップ

④三谷地区①



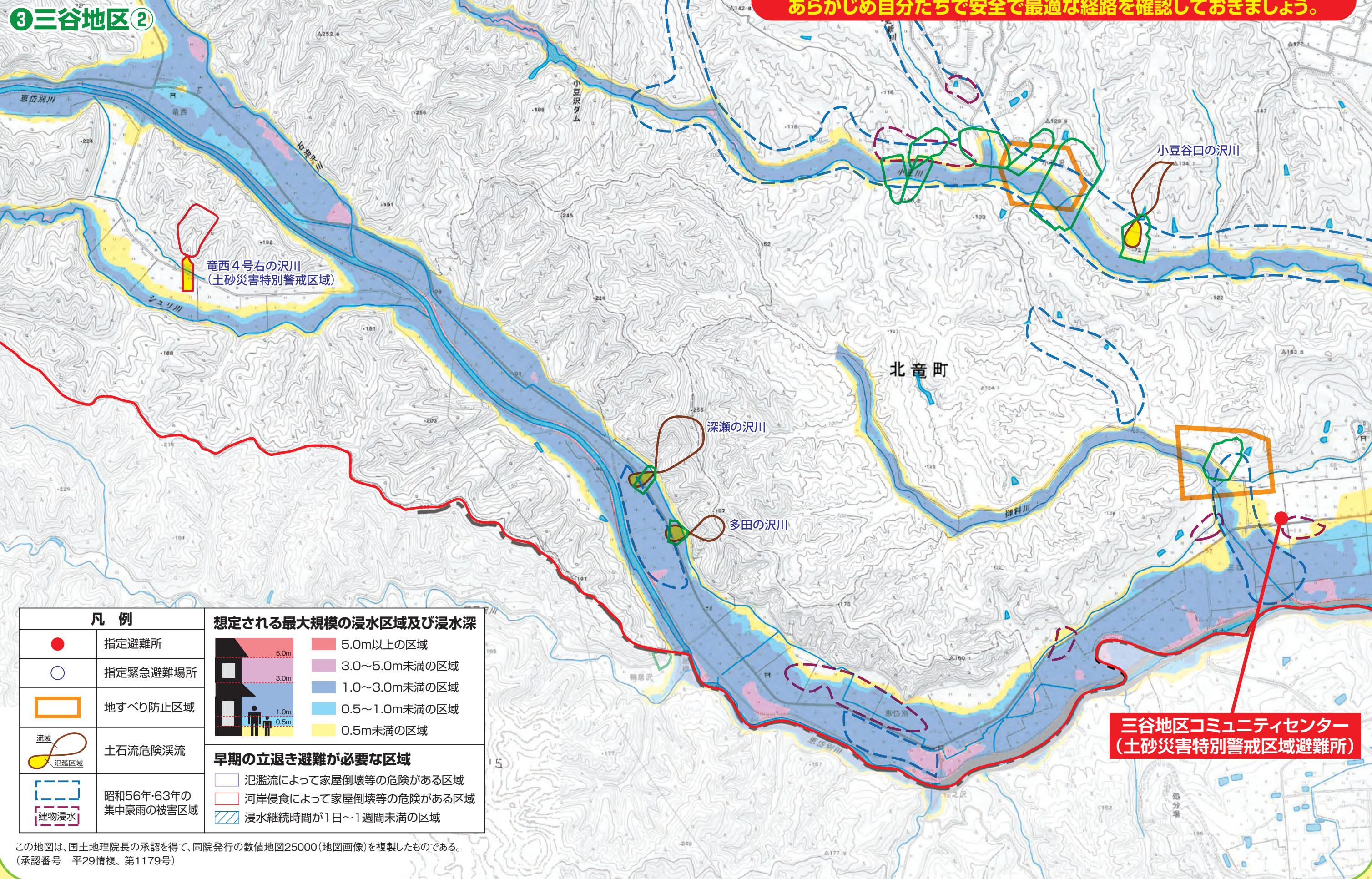
ご自宅から避難場所までの経路は、住んでいる場所によって異なります。
あらかじめ自分たちで安全で最適な経路を確認しておきましょう。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
(承認番号 平29情復、第1179号)

北竜町洪水・土砂災害ハザードマップ

③三谷地区②

ご自宅から避難場所までの経路は、住んでいる場所によって異なります。
あらかじめ自分たちで安全で最適な経路を確認しておきましょう。



凡 例	
●	指定避難所
○	指定緊急避難場所
〇	地すべり防止区域
流域 氾濫区域	土石流危険渓流
建物浸水	昭和56年・63年の 集中豪雨の被害区域

想定される最大規模の浸水区域及び浸水深	
	5.0m以上の区域
	3.0～5.0m未満の区域
	1.0～3.0m未満の区域
	0.5～1.0m未満の区域
	0.5m未満の区域

早期の立退き避難が必要な区域	
	氾濫流によって家屋倒壊等の危険がある区域
	河岸侵食によって家屋倒壊等の危険がある区域
	浸水継続時間が1日～1週間未満の区域

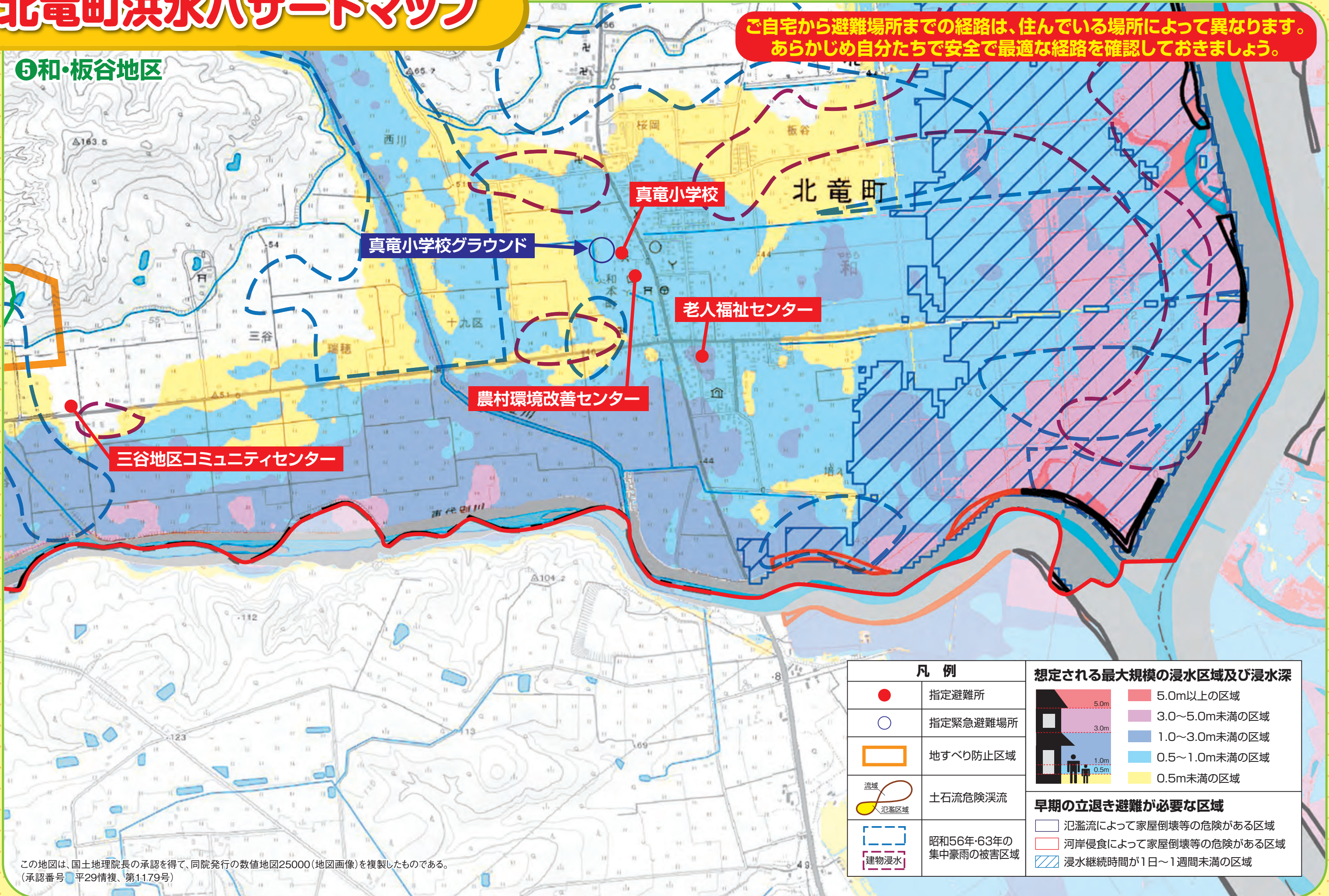
三谷地区コミュニティセンター
(土砂災害特別警戒区域避難所)

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
(承認番号 平29情複、第1179号)

北竜町洪水ハザードマップ

⑤和・板谷地区

ご自宅から避難場所までの経路は、住んでいる場所によって異なります。
あらかじめ自分たちで安全で最適な経路を確認しておきましょう。

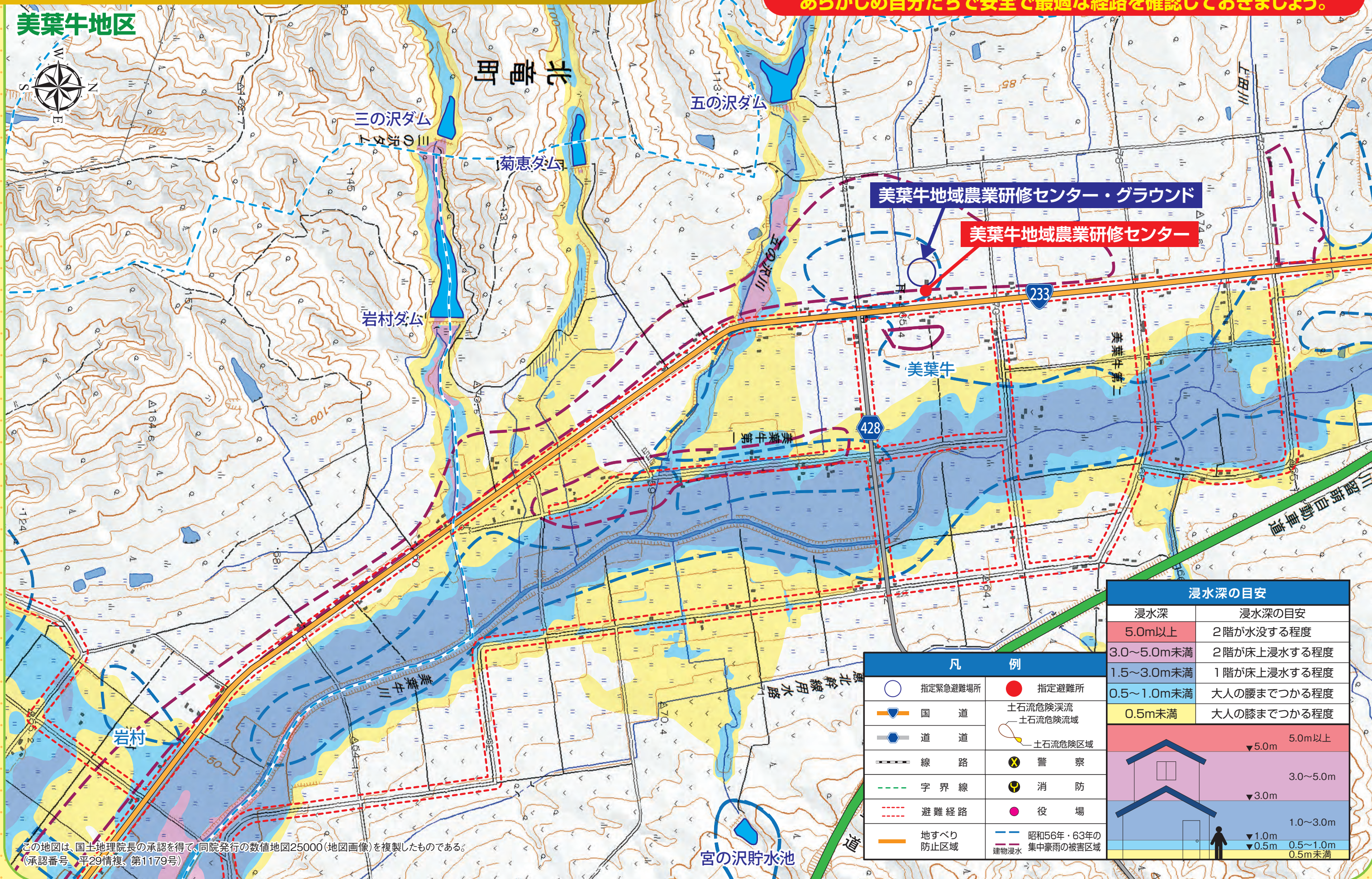


この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
(承認番号 平29情複、第1179号)

凡 例		想定される最大規模の浸水区域及び浸水深	
●	指定避難所		5.0m以上の区域
○	指定緊急避難場所		3.0～5.0m未満の区域
□	地すべり防止区域		1.0～3.0m未満の区域
流域	土石流危険渓流		0.5～1.0m未満の区域
氾濫区域	昭和56年・63年の集中豪雨の被害区域		0.5m未満の区域
建物浸水		早期の立退き避難が必要な区域	
		氾濫流によって家屋倒壊等の危険がある区域	
		河岸侵食によって家屋倒壊等の危険がある区域	
		浸水継続時間が1日～1週間未満の区域	

北竜町洪水・ため池ハザードマップ

ご自宅から避難場所までの経路は、住んでいる場所によって異なります。
あらかじめ自分たちで安全で最適な経路を確認しておきましょう。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
(承認番号 平29情複、第1179号)

凡 例	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	国 道
	道 道
	線 路
	字 界 線
	避難経路
	地すべり防止区域
	土石流危険渓流
	土石流危険流域
	土石流危険区域
	警 察
	消 防
	役 場
	昭和56年・63年の集中豪雨の被害区域

浸水深の目安	
浸水深	浸水深の目安
5.0m以上	2階が水没する程度
3.0~5.0m未満	2階が床上浸水する程度
1.5~3.0m未満	1階が床上浸水する程度
0.5~1.0m未満	大人の腰までつかる程度
0.5m未満	大人の膝までつかる程度

5.0m以上
3.0~5.0m
1.0~3.0m
0.5~1.0m
0.5m未満

一時避難場所・避難所一覧



一時避難場所及び避難所

対象地区	施設名	電話番号
美葉牛	美葉牛地域農業研修センター	34-3042
岩村・碧水・共栄・古作	碧水生きがいセンター	34-2109
板谷・西川・桜岡の一部	北竜中学校	34-2002
桜岡の一部・和・和東町 和町・和本町・三谷の一部	真竜小学校	34-2018
	北竜町農村環境改善センター	34-2553
	老人福祉センター	34-3435
三谷の一部	三谷地区コミュニティセンター	34-2901

ご自宅から避難場所までの経路は、住んでいる場所によって異なります。
あらかじめ自分たちで安全で最適な経路を確認しておきましょう。



ハザードマップを収納してください

(マップは常に見えるところに貼っていただくか定期的に見て避難路を確認しておきましょう)



緊急ダイヤル一覧

●警察

110 番

和駐在所 (0164) 34-2100

碧水駐在所 (0164) 34-2139

●火事・救急車

深川地区消防組合 北竜支署

(0164) 34-2200

※休日・夜間診療機関へのお問い合わせは、救急医療情報案内センターか、北空知夜間急病テレホンセンターまで。☎0164-22-4100

119 番

救急医療情報案内センター …………… **0120-20-8699**

・携帯電話・PHSから …………… **011-221-8699**

・FAX案内サービス（音声応答） …………… **011-272-8699**

消防車・救急車の呼び方

あわてず！
落ち着いて！

119 番 ダイヤル

①火事（救急）です。

（住所）

（氏名）

②住所は、……………の……………です。

③○○○○○が燃えています。（病人、けが人です。）

④目印は、……………です。

（電話番号）

⑤電話番号は……………です。

※いざという時にあわてないように、点線部分にわが家の所在地等を書き込みましょう。

声の
伝言板

災害用伝言ダイヤル

被災地域やその他の地域の方々との「声の伝言板」です。
171にダイヤルしますと、ガイダンスが流れます。
この指示に従って番号をダイヤルしてください。

171 番

利用
方法

伝言を
録音する

1 7 1

局番なしの「171」をダイヤル。
後は音声ガイダンスに従って…

1

「1」を押す。

「被災者」は自分の電話番号を、「被災者以外」の人は被災者の電話番号を（市外局番から）(000) 000 0000→伝言を吹き込む（30秒以内）

伝言を
再生する
（聞く）

1 7 1

局番なしの「171」をダイヤル。
後は音声ガイダンスに従って…

2

「2」を押す。

「被災者」は自分の電話番号を、「被災者以外」の人は被災者の電話番号を（市外局番から）(000) 000 0000→伝言を聞く（30秒以内）

●北竜町役場

(0164) 34-2111